

令和 6 年度 事業報告

学校法人 KTC学園

(1) おおぞらメソッドの確立

なりたい大人になるための学校の具現化という教務テーマに基づき、おおぞらメソッド活用によって、おおぞらしさの深化を目指して取り組んでまいりました。

1 おおぞらメソッド活用

みらいノートを活用した lonl コミュニケーションと 7 つの力を意識した在り方

2 価値観教育講座「みらいの描き方」

3 なりたい大人「卒業発表～ジブンのキセキ～」

卒業制作として「なりたい大人」のプレゼンテーション（文章、映像、イラスト等）を実施予定

引き続き、みらいノートを活用した lonl コミュニケーションを軸に、おおぞらメソッド活用のムードを醸成してまいります。

(2) センバス教育のメソッド確立(より屋久島らしさを感じられるスクーリングをめざして)

「つながる場所、つなげる場所。なりたい大人になるために。」を旗印に、屋久島というホリスティックの実践に最適な場所で、屋久島の大自然を生かした体験型学習や屋久島センバスビレッジを利用したスクーリングプログラムを組み込み、充実した内容となるよう、取り組んでまいりました。

1 体験学習法の理解と実践

育成プロジェクトの一環として、②と連動させながら取り組みます。

2 外部講師によるプログラムのブラッシュアップ

定期的な研修参画を予定し、実施します。関心をもって取り組む当事者としての意識改革は徐々に形になっていると感じます。

よりスピーディに、より広く、学校全体の取り組みとして影響を持たせ、アウトブランディングの点においても、ブランド化推進を当事者意識をもって取り組んでまいります。

(3) 教育の質を向上させるために

サポート校であるおおぞら高等学院にて NPS (ネット・プロモーター・スコア) を実施する予定です。NPS とは、顧客ロイヤルティ(継続利用意向)を知るための指標であり、我々の教育サービスがどのように認知されているのかを示すものとして導入しております。

1 NPS 数値

昨年度と比較し、改善傾向にある

2 授業

レポートが単純にできたという満足ではなく、「自分で理解し、解けたという実感」に移行している。

3 コーチ対応

「よく話を聞いてくれる、話しかけてくれる」は最も数値が高く、注目されている。

4 みらいコース

マンガイラストと住環境コースは「友達ができる」、プログラミングコースは「好きを得意にできる」、こども福祉コースは「体験から学ぶ」という特長がみられる。

5 課題

みらいノートを活用したコミュニケーションによって、生徒がどのようなことにチャレンジしたいのかを把握し、コーチングメソッドによって導いていく関わりが次なる課題。

(4) 地域への協力・連携強化

引き続き、屋久島町との包括連携協定に基づき、屋久島の魅力の情報発信や特産品の販売促進等は継続して実施いたしました。また、つながる学科の地域講師の継続依頼及び新規確保も進めております。地域の中・高との連携についても、徐々に進んでおり、屋久島高校の体育祭にゲスト出演し、屋久島高校山口悟校長とのバトンリレーも行われました。今後、教育的な取り組みの中でのコラボレーションを図れるよう関わってまいります。

企業との関わりにおいては、屋久島電工株式会社との繋がりができております。屋久島で取り組む事業が円滑に進むよう、継続的な関係構築を図ってまいります。

今後も引き続き、様々な角度から地域との連携体制を築いてまいります。

(5) 学校としての安全管理

生徒やスタッフの安全性を担保するため、学校における安全管理の具体策を計画し、実施して図っております。

1 危機管理マニュアルの策定と実施

よりよい安全管理体制に向けて準備を進めております。

2 自死やいじめへの対応

全国で自死抑止への取り組みをされている高橋聡美氏（一般社団法人高橋聡美研究室代表）を顧問として、スクリーニング調査を踏まえたカウンセリング体制を構築しています。各都道府県や市区町村との連携体制についても構築を進めているところです。いじめ防止につきましても、いじめ防止基本方針を策定し、アンケート調査などを通じて認知・対応を進めております。

3 スタッフの心身のコンディション確認と環境整備

2020 年度より提携している鹿児島市内のメンタルクリニックと連携し、定期カウンセリングの実施を計画し、実施しております。目的は心身不調の早期発見と対処です。担当医やカウンセラーからも取り組みに対する前向きな評価をいただいています。メンタルヘルス本来の目的である「自らの心身に関心を持ち、コントロールを図る」という意識行動の喚起につながっていると感じています。